

この度は第6回精神科看護勉強会にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。  
今回、【精神科看護師の技術の明確化】をテーマに、3グループに分かれて座談会が行われました。  
医療者でない方から「精神科の看護師って何をする仕事なの？何をしているの？専門職として何をしているの」と説明を求められたら、どのように説明しますか。  
我々医療者だからできる専門性とはなんなのでしょう。看護師の業務独占、ではその専門性を説明できることが必要では無いのでしょうか。座談会の結果から一緒に考えてみてください。  
※勉強会の座談会は、思ったことを自由に発言することを大切にしており、正解や不正解を問うものではありません。

## 第6回精神科看護勉強会

令和2年1月26日

Q：学生時代精神科についてどういう教育を受けてきたか。

- ・教科書中心
- ・疾患だけを学び怖さがあったが、実習に行くと楽しかった。
- ・病的体験の中で生活していると学ぶ。
- ・事例で重い人が多く、怖さを植え付けられた。
- ・法律
- ・鉄格子で、暗く怖い大声がする。
- ・犯罪者は一般の人の方が多い。
- ・あまりに具体的な内容を習った覚えがない。
- ・偏見の払拭みたいな楽な授業。
- ・就職後のギャップなど。
- ・精神保健福祉法は学校で習っていない。現場で人権を学んだ
- ・病気のことを少し習った感じ、でも今思えばしっかり習ってない。
- ・統合失調症で、陽性症状・陰性症状を習っても、認知機能障害は習っていない。
- ・ビデオをみた
- ・やられる前にやれ。舐められたら精神科看護はできないと。
- ・精神科看護の経過、牢獄から変わったと。
- ・「ちゃんと話を聞きなさい。うまく言葉にできないけど、自分なりに解釈して、関係を作って行きなさい」
- ・実習で精神科の看護師は言葉が強い、荒い人が多い。

Q：私たちは何屋さんなの？何をする仕事なのか？

- ・社会復帰をさせる人
- ・コースアウトしないようネット的なこと
- ・検査データの補正
- ・心のケアを目的として寄り添い味方になる仕事
- ・ヘルパーさんでもできるかと思い、葛藤しているが、生活するための支援
- ・拒否する人の理由を考えて解決を目指していく仕事
- ・患者さんをその気にさせる仕事
- ・もう一度希望を持たせる
- ・薬を飲ませるのが仕事ではない
- ・患者さんとパートナー
- ・何屋と思うのもおごましい
- ・伴走者
- ・人生の黒子役
- ・何でも屋
- ・うまく答えられない
- ・精神的肉体労働
- ・薬を飲ませる仕事？飲まなかった場合吊し上げ
- ・扇の中心

## Q：精神科看護の役割とは？

・お風呂に入らなくて良いよと言えるのは看護師、補助さんとは違う。看護は、エビデンスに基づいた病気の人の世話、療養の世話。

・患者の自己実現に近づけるよう支援者      ・心を病んだ人を支える      ・地域の調整者

・退院後の生活サポート      ・患者さんの思いを知った上でどうするか考える

・慢性期病棟、退院させやすそうな人から関わりがちで、退院できない人とラベリングしてしまっていると思う。急性期、患者の力で3ヶ月以内に退院されることも多い。

・マネージャー      ・アシスタント      ・プロデューサー

